

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部 看護学科
齊藤 史恵

作成日 2024年1月29日

1. 教育の責務

看護師として病院での実務経験のあと、非常勤で看護や教育関連の実習指導に長年携わり、弘前学院大学看護学部に2009年に採用される。

現在の教育活動は、1年生の基礎演習と健康づくり実習、他はすべて小児看護学関連の授業・演習・実習、看護統合実習を担当している。

委員会活動は、実習委員会は8年目で看護学実習全体に関わる委員会に属している。

2023年度は、リカレント委員会の委員長になり活動を行っている。

地域とのつながりを意識して行動するよう努めている。現在、大学院地域社会研究科の学生でもある。

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
基礎演習	1年	講義	前期	初年次教育
健康づくり実習	1年	実習	前期	地域で生活している人の生活を知る実習
小児看護方法論	2年	講義	後期	疾患を持つ小児の援助
小児看護援助論	3年	演習	前期	様々な状況にある小児の援助・実践
小児看護学実習	3年	実習	後期	臨床において様々な状況にある小児とその家族への実習
	4年	実習	前期	
看護統合実習	4年	実習	前期	統合的に、より実務的な看護実践能力を高める実習
卒業研究	4年	論文指導	通年	研究プロセスを経験し、論文を完成、口頭発表

2. 教育の理念

私は、基礎看護分野を終了した学生たちを、実習や卒業レベルまでに知識や実践力を向上させることを目指して日々教育を実践している。臨床現場の状況は、厳しい状態が続いている。看護学は、コロナ禍の影響をまともに受け、教育内容を変更せざるを得ない状況が続いた。学生の学習への姿勢も変化してきている。しかし、どのような状況であっても、看護は、一人一人の患者様の生活とともにあり、人生の最初から最期までを寄り添う大事な仕事であることを学生に伝えていかななくてはならないと思っている。時には厳しい教育であっても、学生自身が必ず超えていかななくてはならないこともあり、その後の充実感も実感してもらい、自信を持って社会に出てほしい。小児看護学では、対象は、成長過程にある子どもであり、関わる学生も日々成長している。そのことをふまえて、学生が子どもと関わることを通して自らの成長が実感できるよう、学生と子どもとの関係がスムーズに進展していけるような、働きかけを実践する努力を行っている。

3. 教育の方法

担当授業では、大変な授業をいかに学生が興味を持ち、楽しく学んでいくか、学生の興味を意識した学習内容を検討している。

小児看護援助論では、TBL（チーム基盤型）学習を取り入れて、アクティブ・ラーニングを積極的に実践し、知識だけではなく、実践力、チームの団結力を向上させることを目的に教育を検討・実施している。

2年生の概論、方法論から、3年生の援助論へのつながりを意識して、学生が、3年生からの授業・ワークに参加しやすくなることを意識づけ、授業前の基礎的知識の準備を済ませておく。準備が整っている授業は、教員にとっても、学生にとっても進行しやすく、「面白い」が実感できる内容になっている。

内容的な工夫の一部としては、グループの人数、メンバーの配置、グループの名称、席替え、役割分担、自己紹介ゲーム、顔を上に向けてグループワークをスムーズに行うためのツールの見直し、学生の自由な発想を認めていく環境づくりなど、グループワークが活性化するように常に研究し実践している。楽しく学習に参加した学生が、誤ってふざけた行動にならないように、グループのパフォーマンスを評価するピア評価を実施し、学生同士でのグループ活動の活性化を図っている。グループ活動では、積極的な意見や発表ができると、グループに加点が入るような仕組みなどを積極的に取り入れ、グループ・ダイナミクスを利用し、学生の積極性を高めている。

課題が多い分、できるだけ教員が手間をかけて、学生の課題を毎回確認することを大切にしている。課題の一つとなっている事例のアセスメント提出は、期間中5回提出させている。教員は、毎回、全員のアセスメントにコメントを付け、授業期間中にフィードバックを何度も行っている。

4. 教育の成果

学生の学習には、毎回フィードバックをするよう心掛けています。課題のアセスメントは、毎回、この内容が提出されていない場合、教員からのコメントや正解例がもらえないため、提出しない学生は、ほとんどみられない。繰り返し実施することで、5回目の提出のころには、1回目と比較してもかなりの完成度になっている。このアセスメントは、実習事例と近いものであって、引き続き使用できるため、きつい課題ではあるが、授業の成果は大きいものとなっていると実感している。

TBLなどのアクティブ・ラーニングは、学生は夢中になって学習を行っていく。以前の授業方法に比較すると、学生の反応は全く異なる。学生は、授業にのめりこみすぎて、教員が心配するほど集中する。

授業評価「この授業から新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる」では74.5%が4の評価であった。

5. 教育の改善

学生が山と思えるものを減らすことではなく、スムーズに登れるような教育内容の改善を心がけたい。

6. 教育の目標

① 短期目標

病院実習を想定すると、学生の学習状況レベルは現状を維持したい。低学年からの学習習慣や考え方の定着が必要である。

全体では、教員の手助けにより、学生の立場でも参加可能な、地域での学生活動を支えていきたい。地域のボランティアの紹介などを行い、大学と地域をつなげたい。

② 長期目標

常に変わらない教育、変化する教育を分けて行動したい。

【資料】

1. シラバス.